

社会福祉法人 双葉会 事業報告抜粋

1. 総括

今年度は、介護報酬改定年度であり、「団塊の世代が75歳以上となる2025年に向けて、国民1人1人が状態に応じた適切なサービスを受けられるよう、質が高く効率的な介護の提供体制の整備を推進」を目標に+0.54%の改定が行われました。一昨年施行された改正社会福祉法と併せ、現在の社会福祉法人に求められている形を具現化すべくこれらに積極的に取り組むとともに、琴清苑新築事業に向けて、計画書の提出、現地調査、協議書の提出、2回のヒアリングと今年度6月に内示を受けられるよう準備を進めた年度となりました。公益的な取組にあたる配食サービス、送迎事業については伸び悩んでいるものの継続して事業の展開を図って行きたいと考えています。

老人施設においては、入所稼働率は寿楽荘で96.3%、琴清苑で98.1%、短期入所事業では寿楽荘114.4%、琴清苑95.1%という結果であり、概ね計画通りの実績を残せたものの、入所待機者の著しい減少、要介護度の制約等課題となっています。しかし、稼働率の変動はそのまま事業活動の結果に直結するものであり、これからも年間を通じ高い数値を維持できるよう努めて行きます。また、看護・介護職の人材難が深刻であり、知恵をしばり雇用対策の強化を図っているところです。EPA介護福祉士候補生2名の受入れも、将来的な雇用対策の一環です。

保育園については、町が力を入れている子育て支援施策の一つである保育料無料化の効果が徐々に出てきている傾向が見え、上向きの決算状況となっています。

診療所については、施設利用者の重度化・町内の高齢化等により医師の業務が激増している中、後任の医師確保に苦慮している状況が続いています。今後、医師の健康状況も考慮し、非常勤医師の増員等も視野に入れ体制強化を図って行きます。

ともあれ各施設において、法人の理念である「心の福祉」の周知に努め、社会貢献事業の充実・強化、職員処遇改善・育成、再雇用制度の充実に取り組み厳しいながらも安定した運営に努めました。

双葉会診療所 事業報告抜粋

1. 総括

今年度も経営基盤の安定を目指し日々努力してきました。結果、入院患者延数が700名の増加、前年比1.29%増、しかし、一般の外来患者延数は156名の減少、前年比6.1%減の結果となりました。入院患者延数の増加に伴い保険外収入も増収しました。外来患者延数減少の原因は、地域住民の高齢化及び人口の減少等が考えられます。

また、常勤医師1名体制が続き午後の予約診療の実績が伸びず収益につなげることができませんでした。医師の確保は急務であり重要課題となっています。委託業務の特定検診、各種予防接種は前年同様程度に推移しました。

医療機器等は、より安全な医療を提供するために糖尿病患者の自己血糖測定器を新しい機種へ変更、喀痰吸引時の各備品を新しく購入し、次年度は低床ベッドの購入も予定しています。

今後も医師、看護師を中心にサービス向上、安全で適切な医療、ニーズに合う医療、質の良い医療の提供に尽力し選ばれる医療機関の構築を目指していきます。

寿楽荘 事業報告抜粋

1. 総括

平成30年度は厳しい事業年度だった。収入的には後述の稼働率により高いレベルを維持出来たが、介護も調理も働き手の不足は深刻な状況が続いている。負担の極集中を回避するため、事務・医務職員等全職員が協力を行なうが、根本的な解決策は人員の補充であり、引き続き求人サイトや学校への働きかけを行なっていく。明るい材料は、昨年のEPAフィリピン人介護福祉士候補生に続き、インドネシア人技能実習生の受入れが予定されている点が挙げられる。但し技能

実習生に関しては宗教・生活習慣や日本語レベルの問題もあり未知数の部分もある。

介護用品・調理器具といった高額物品の計画的な整備は、共同募金などを受けながら順次整備を行ってきた。改築後18年が経過するので優先順位を確認しながら今後も整備を進めていく。

利用者に関しては平均要介護度が4.2となった状況で稼働率が96.3%を残せたのは、各職種内・間及び委員会で円滑な業務遂行ができた結果と捉えている。今後も、安心・安全なサービスの提供に努めたい。

入所申込者の確保に関しては、在宅ケアマネージャーへの働きかけも行ってきたが、病院・福祉事務所等の紹介が大半を占めた。「西多摩特養ガイド」に関してはコストパフォーマンス面で再考も視野に経過をみたい。

職員に関しては、介護福祉士合格者1名、痰吸引資格者、認知症研修受講者など、個人面談時の本人希望のほか施設の長期的展望に沿った職員育成も計画的に行えた。

琴清苑 事業報告抜粋

1. 総括

平成30年度は全面改築の具体的な行動の年度でありました。奥多摩町との建設用地や補助金についての協議、説明、東京都への協議書の提出、ヒアリング等を経て新しい年度の令和元年に内示を頂ける予定となりました。次年度以降に続く法人の大きな事業が具体的に進んでまいりました。

施設利用率は98.09%と前年より1.79%増加でした。目標としている利用率98%をクリアする事が出来ました。これは非常に介護の手間がかかる重介護者の受入れを進めることに対して、介護現場や各職種の職員の協力があっての成果であるといえます。ただし、30年度も入所待機者が常にいない状況が続き受け入れ態勢が苦しい状況は続いております。ショートステイは前年同様、長期に継続して利用して頂けた利用者がいた為に95.07%と前年より14.87%増加しました。平成30年度中に退所された利用者も16名と2年連続して20名を割った人数で、心身共に重度化した利用者が増え続ける中で職員の大きな努力の結果と言えます。

慢性的な人員不足が続く中で、定年や自己都合により退職する職員が出て、その後の採用が進まない中で厳しい運営が続いております。EPAの採用もうまくいかず、次年度の課題は多くあります。その中で年末に外国人技能実習生がインドネシアから4名来日し就労することは新たなスタートになると思われれます。また、次年度の新規就労者採用の為に、職安や学校への働き掛けを強化してまいります。

キャリアアップとして介護福祉資格やキャリア段位について30年度も新たな資格取得者が誕生しました。今後も資質向上して行ける様な体制を確立してまいります。

氷川保育園 事業報告抜粋

1. 事業概況

平成30年度も、職員のキャリアアップを目指し保育に取り組みました。年齢別発達状況・健康管理・食育・職員研修の各項目に沿って保育リーダーを中心に、クラスの目標達成度について話し合いながら保育を進め、一人ひとりの子ども達の発達や成長を全職員で共有し保育に取り組みました。また、今年度より実施された保育士キャリアアップ研修では、全保育士が受講し各分野において資質の向上に努めました。

運営状況では、児童処遇・職員処遇とも事業計画に沿った活動を実施し予算の執行に努めました。施設整備では、多目的総合遊具の導入や、保育室等出入り口引き戸交換工事を実施することが出来ました。

今年度も3歳未満児の割合が全園児の40%を占め、安全対策や生活環境に配慮しながら保育に取り組んできました。年間園児充足率も84%と安定し、施設整備積立金や備品購入積立金を計上し、将来への財源確保に努めることができました。